

DERWENT-ACC-NO: 2000-658430

DERWENT-WEEK: 200064

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: New menstrual pain relieving composition contains ibuprofen and vitamin C

----- KWIC -----

New menstrual pain relieving composition contains ibuprofen and vitamin C

NOVELTY - New menstrual pain relieving composition comprises ibuprofen and vitamin C.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-229853
(P2000-229853A)

(43) 公開日 平成12年8月22日 (2000.8.22)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マ-ト* (参考)
A 6 1 K 31/19	6 0 2	A 6 1 K 31/19	6 0 2 4 C 0 3 7
31/00	6 1 5	31/00	6 1 5 4 C 0 8 6
31/375		31/375	4 C 2 0 6
// C 0 7 C 63/04		C 0 7 C 63/04	4 H 0 0 6
C 0 7 D 307/62		C 0 7 D 307/62	
審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 3 頁)			

(21) 出願番号 特願平11-33584

(22) 出願日 平成11年2月12日 (1999.2.12)

(71) 出願人 000002819

大正製薬株式会社

東京都豊島区高田3丁目24番1号

(72) 発明者 津野田 貴子

東京都豊島区高田3丁目24番1号 大正製
薬株式会社内

(72) 発明者 青木 真司

東京都豊島区高田3丁目24番1号 大正製
薬株式会社内

(74) 代理人 100074114

弁理士 北川 富造

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 生理痛改善用組成物

(57) 【要約】

【課題】 生理痛の改善効果に優れた経口組成物を提供する。

【解決手段】 イブプロフェンおよびビタミンCからなる生理痛改善用組成物。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 イブプロフェンおよびビタミンCからなる生理痛改善用組成物。

【請求項2】 イブプロフェン1重量部に対してビタミンCが0.1～1.1重量部である請求項1記載の生理痛改善用組成物。

【請求項3】 イブプロフェンとビタミンCが別顆粒として造粒されていることを特徴とする請求項1または2に記載の生理痛改善用組成物。

【請求項4】 イブプロフェンの1日あたりの投与量が300～500mgである請求項1～3のいずれかに記載の生理痛改善用組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、生理痛の改善に有効な組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】生理痛は月経に随伴する局所症状の一つで、下腹部痛、腰痛、下腹部膨満感、下腹部重圧感、腰部緊張感などを呈し、不快感を与える。

【0003】生理痛の改善には、従来は特開平8-80317号公報、特開平9-194351号公報などのように貼付剤を用いて暖めることによる症状の緩和の検討が主であり、速効性が高い内服薬としては十分な検討がなされていないのが現状である。

【0004】生理痛の改善に用いる内服薬としては、頭痛、歯痛の改善などにも幅広く使われているイブプロフェン、アセトアミノフェンなどの鎮痛剤が有効であるが、生理痛の改善にさらに有効な内服薬が望まれていた。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明は生理痛に対して十分な改善効果を有する生理痛改善剤を提供することを目的にする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、課題を解決するため種々検討した結果、イブプロフェンおよびビ*

*タミンCを同時に服用すると、それらの相乗効果により、生理痛の改善効果が大幅に向上することを見出し本発明を完成した。

【0007】すなわち本発明は、イブプロフェンおよびビタミンCからなる生理痛改善用組成物である。

【0008】

【発明の実施の形態】本発明でビタミンCとはアスコルビン酸、アスコルビン酸ナトリウム、アスコルビン酸カルシウムなどがあげられ、それらの誘導体も使用することができる。

【0009】本発明においてイブプロフェン1重量部に対するビタミンCの配合量は、0.1～1.1重量部が好ましい。

【0010】本発明の組成物は通常の基剤、賦形剤等を用いて、錠剤、散剤、顆粒剤、カプセル剤、液剤などの経口製剤にすることができるが、製造適性の点からイブプロフェンとビタミンCを別顆粒として製造する方法が好ましい。

【0011】本発明の組成物の投与量は年齢、体重等を考慮して適宜増減することができるが、イブプロフェンの配合量が1日量で300～500mgとなる量が好ましい。また、投与方法は1日1回～数回に分けて経口投与することができる。

【0012】

【発明の効果】本発明により生理痛に有効な医薬組成物を提供することが可能になった。

【0013】

【実施例】実施例1

表1に示した処方に従って、ヒドロキシプロピルメチルセルロース2910水溶液を結合剤としてスプレーして流動層造粒した後、乾燥、整粒してイブプロフェン顆粒を調製した。この顆粒に、直打用アスコルビン酸カルシウム、タルク、ステアリン酸マグネシウムを混合し、打錠して、錠剤を調製した。

【0014】

【表1】

配合成分	1錠あたりの配合量 (mg)
イブプロフェン	75
軽質無水ケイ酸	13.5
低置換度ヒドロキシプロピルセルロース	20.8
結晶セルロース	4.4
ヒドロキシプロピルメチルセルロース2910	8.3
小計	122
直打用アスコルビン酸カルシウム	50
タルク	3.7
ステアリン酸マグネシウム	0.4
計	176.1

試験例

実施例1の錠剤および比較例として市販のイブプロフェン※50

※単味錠剤(1錠あたりイブプロフェン75mg配合)を

用いて、各錠剤2錠(イブプロフェン150mg相当量)

を、生理痛患者10名ずつに服用させた。服用後1時間の状態をアンケートの形式で解答してもらったところ、生理痛が改善された人数が、実施例1では10名中8

名、比較例では10名中3名であった。

【0015】この結果から明らかなように本発明の経口組成物は生理痛に対して高い改善効果を示した。

フロントページの続き

Fターム(参考) 4C037 LA03

4C086 AA01 AA02 BA18 MA02 MA09

MA41 ZA08 ZA81

4C206 AA01 AA02 DA24 MA02 ZA08

ZA81

4H006 AA01 AB22 BJ50 BS30